

【一】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係により、掲載できません。

池内了『本の棲み分け』

問一 二重傍線 (a) ～ (e) について、カタカナを漢字に直しなさい。

問二 波線 (i) 、 (ii) の言葉の意味として適切なものを、次の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

(i) 「お茶を濁す」 1 あわてる 2 誤解する 3 ごまかす 4 嘘をつく

(ii) 「融通が利かない」 1 柔軟性に欠ける 2 わがままである 3 人間味に欠ける 4 曖昧である

問三 空欄A～Cに入る言葉として適切なものを、次の選択肢からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- 1 たとえば 2 しかし 3 そもそも 4 だから

問四 空欄Dには、身体の部位を表す語が入る。次の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 耳 2 口 3 顔 4 足

問五 傍線㉞「カーボン人間」とはどのような人間のことを言っているのか。三十字以内で説明しなさい。

問六 傍線㉟「実際に電子出版を勧められると、少々動揺した」とあるが、なぜか。理由としてあてはまるものを、次の選択肢から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 宇宙の写真は、著作権が厳しく、お金がかかるから。
2 電子書籍であれば、きれいな写真で見せられるから。
3 科学に関心を持つ人が増えるのではと考えたから。
4 電子書籍を出版するノウハウを持っていなかったから。

問七 傍線㊱「その意味で本の寿命は短く、入手できなくなってしまう。」とあるが、なぜか。理由を六十以内で説明しなさい。

問八 傍線㊲「古典と言われる科学の本も存在」とあるが、筆者の考えとして、あてはまるものを次の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 古典として残っている作品は、誰が読んでも、新鮮な文体で書かれていて、鮮烈な印象を受けるもの。
2 事実とは異なる事例が含まれるもの、過去の比較により、現代科学の問題を明らかにしてくれるもの。
3 長い年月に多くの人に読み継がれて、電子書籍にはない紙の本だけがもつ言葉の重みを感じさせるもの。
4 何度も読み返すことで理解が深まり、時間を超えて昔学んだ時の記憶を思い出させてくれるもの。

問九 傍線㊳「悪貨は良貨を駆逐する」と同義の文を、次の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 悪が栄えたためしはない。 2 罪を憎んで人を憎まず。
3 無理が通れば道理が引込む。 4 悪に強いは善にも強い。

問十 本文の内容と合致するものを次の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 たくさんの本が出版され、どのような本が出ているかを把握しにくくなっていることも、本が売れなくなっている要因として考えている。
2 電子書籍の利便性に感心し、視覚的にも効果的なレイアウトができるため、著者の思いを反映しやすく、短い期間で出版できると言っている。
3 電子書籍は、記録媒体として優れているが、何度も読み返したり、書き込んだりすることができないので、紙の本での学習が望ましいと思っている。
4 紙の本は、省資源を目指す現代社会において、不必要なものであり、今後は電子書籍の利用を増やし、地球環境の保護をすべきだと主張している。

【二】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の関係により、掲載できません。

瀧羽麻子『ありえないほどうるさいオルゴール店』

著作権の関係により、掲載できません。

瀧羽麻子『ありえないほどうるさいオルゴール店』

著作権保護のため掲載できません。

瀧羽麻子『ありえないほどうるさいオルゴール店』

問一 二重傍線(a)と(f)の漢字は読みを、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 波線(ニ)・(三)の言葉の意味として、適切なものを、次の選択肢より一つ選び、番号で答えなさい。

(ニ)「宙に目をさまよわせている」

- 1 人目をこまかそうとしている様子。
- 2 目がぼんやりとしている様子。
- 3 視線を動かさず、じっと見つめる様子。
- 4 全体をゆっくりと見渡している様子。

(三)「腰がひけてしまっ」

- 1 相手に対して態度が謙虚になる。
- 2 驚いて、立ち上がることができない。
- 3 意地がなく、我慢することができない。
- 4 どうしようかと悩み、消極的になる。

問三 傍線①「胸騒ぎがしていた」とあるが、なぜか。この時の康則の心情を明らかにして六十字以内で答えなさい。

問四 傍線②「絹子だってもう七十代なのだ」の解釈として、適切なものを次の選択肢より一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 康則は自分も歳をとり、妻の絹子も七十代になりお互いに歳をとったことで、病気になることを心配している。
- 2 康則は自分と妻が七十代になったことにより、これまでの時間の流れの早さに嘆き、悲しんでいる。
- 3 康則は自分だけが忘れっぽくなったと思っていたが、妻の絹子も物忘れがする歳になったと気づいた。
- 4 康則は今まで、自分だけが歳をとってしまったと思っていたが、絹子も七十代になったので安心してている。

問五 傍線③「そのまなざし」とは、絹子のどのような様子を言ったものか。簡潔に説明しなさい。

問六 傍線④「康則は拍子抜けした」の解釈として、適切なものを次の選択肢より一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分が予測していたものと違う絹子の様子を見て、絹子のことがか心配になっている。
- 2 絹子のまじめな性格を心配していたが、絹子の様子を見て安心している。
- 3 リハビリになかなか積極的に取り組まない絹子の様子を見て、いらだっている。
- 4 まじめで努力を怠らない絹子が、ぼんやりと窓の外を眺めるばかりで落胆している。

問七 傍線⑤「厳然たる事実」とは絹子がどうなることか。二十字以内で答えなさい。

問八 傍線⑥「穏やかながら決然とした顔つきを」とあるが、この時の絹子の心情の説明として、適切なものを次の選択肢より一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 たとえ子どもができなかったとしても、これからの人生を康則と生きていこうと決意する気持ち。
- 2 康則がいれば、子どもができなかったとしても寂しくなく、大丈夫だと安心して居る気持ち。
- 3 子どもがいらないことを残念がっている康則のことを思って、二人の人生を受け入れようとする気持ち。
- 4 子どもがいなかったため、これからの人生を康則と二人で生きていかなければならないとあきらめる気持ち。

問九 傍線⑦「ささやかなめりはりをつけた」とあるが、絹子が記念日を大切に理由を康則はどう考えているのか。二十五字以内で答えなさい。

【三】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。
 「蝶が好きな姫君」の近くに「虫が好きな姫君」が住んでいました。両親はこの姫をとっても大切に育てていました。

蝶めづる姫君の住み給ふかたはらに、按察使の(1)大納言の御むすめ、心にくくなべてならぬさまに、親たちかしづき給ふ事かぎりなし。この姫君のたまふこと、(姫)「人々の花蝶やとめづるこそ、はかなくあやしけれ。人はまことあり、本地たづねたるこそ、心ばへをかしけれ」とて、よろづ虫のおそろしげなるをとり集めて、これが(ア)ならむさまを見むとて、さまざまなる籠箱どもに入れさせ給ふ。中にも、(姫)「(A)かはむしの心ぶかきさましたるこそ心にくけれ」とて、明暮は耳はさみをして、手のうらにそへふせてまほり給ふ。

若き人々は、(2)怖ぢまどひければ、(イ)男の童の物怖ぢせず、いふかひなきを召しよせて、箱の虫どもを取らせ、名を問ひ聞き、いま新しきには、名をつけて、興じ給ふ。

(姫)「人はすべて(ウ)つくろふところあるはわろし」とて、眉さらに抜き給はず、齒ぐるめさらにうるさし、きたなし」とてつけ給はず、いと白らかに笑みつつ、この虫どもを朝夕に愛し給ふ。人教怖ぢわびて逃ぐれば、その御方は、いとあやしくなむののしりける。かく怖づる人をば、(姫)「(エ)けしからず、はうぞくなり」とて、いと眉黒にてなむにらみ給ひけるに、いとど心ちなむまどひける。
 親たちは、(親たち)「いとあやしく、さまことにおはするこそ」とおぼしけれど、(親たち)「おぼしとりたることぞあらむや。あやしきことぞと懇ひて、聞こゆる事は、深くさいらへ給へば、いとぞかしこきや」と、これをも(オ)いとほかしておぼしたり。(親たち)「さはありとも、音聞きあやしや。(カ)人はみめをかしき事をこそ好むなれ。むくつけげなるかはむしを興ずなると、世の人の聞かむも、いとあやし」と聞こえ給へば、(姫)「くるしからず。よろづの事どもをたづねて、末をみればこそ事は故あれ。いとをさなきことなり。かはむしの蝶とはなるなり」そのさまのなり出づるを、取り出でて見せ給へり。

- 1 「かたはらに」…家の近くに
- 2 「心にくくなべてならぬさまに」…奥ゆかしく並みひととおりでなく
- 3 「はかなくあやしけれ」…薄っぺらくておかしい
- 4 「本地たづねたるこそ」…物事の本来の姿を知ること
- 5 「耳はさみをして」…自分の低い女のように髪を耳にかき上げて
- 7 「はうぞくなり」…はしたないわ
- 6 「ののしりける」…大騒ぎが起こった
- 7 「はうぞくなり」…はしたないわ
- 8 「いとあやしく、さまことにおはするこそ」…全くなんと変わって、そのようにいらっしやることよ
- 9 「音聞きあやしや」…外間が悪いではないか

問一 (1)の読みを答え、(2)は全て現代仮名遣いで書き換えなさい。

問二 傍線(A)「かはむし」とは何か、答えなさい。

問三 傍線(ア)「ならむさまを見む」(エ)「けしからず」の語の意味として適切なものを次の選択肢より一つ選び、番号で答えなさい。

- (ア)「ならむさまを見む」
- 1 驚く様子を見よう
 - 2 動く様子を見よう
 - 3 変化する様子を見よう
 - 4 鳴く様子を見よう

(エ)「けしからず」

- 1 許さない
- 2 あさましい
- 3 悪くはない
- 4 やむを得ない

問四 傍線(イ)「男の童の物怖ぢせず～興じ給ふ」とはどのような様子と言ったものか、適切なものを次の選択肢より一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 召使いの男の童を怖がらせようと、たくさんの虫を集めてみると、珍しい名前前の虫がいて面白かったこと。
- 2 虫を怖がらない召使の男の童に虫を採らせて、名前を聞いたたり、新しい虫に名前をつけて楽しんだこと。
- 3 虫をもっとたくさん集めようと、召使の童を呼んで探させると、周りの下女たちがあきれかえったこと。
- 4 男の童が虫を採ってきて、姫を怖がらせるのを逆に面白がって、虫の名前を教えて驚かせたこと。

問五 傍線(ウ)「つくろふところ」について答えなさい。

- (1) 傍線(ウ)にあてはまるものを次の中から全て選び、番号で答えなさい。
- 1 花や蝶をめでること
 - 2 おそろしい虫を集めること
 - 3 眉を抜くこと
 - 4 お歯黒にすること
 - 5 白い歯で笑うこと
 - 6 黒い眉にすること

問六 傍線(オ)「これは現代で言う何にあたる行為か、十字以内で答えなさい。」

問七 傍線(カ)「人はみめをかしき事をこそ好むなれ」とはどのようなことを言っているか、二十五字以内で答えなさい。

問八 「虫が好きな姫」は虫を好きなことをどのように言っているか、あてはまるもの二つを番号で答えなさい。

- 1 虫を好きなことで、周りから変わり者扱いされていることが辛い。
- 2 虫を観察すると、物事には意味があることが分かってくる。
- 3 蝶よりも醜い虫を好むの方が、心が美しいに違いない。
- 4 見た目の美しさではなく、物事の本質を見つけない。